

科目名	言語学特講	担当者	ホサカ 保坂 ミチオ 道雄	期間	通年	単位数	4
-----	-------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座では、英語と日本語の言語事実を比較・対照しながら、両言語の奥に潜む普遍的原理を、生成文法と機能統語論の理論に基づき、探求するものである。特に、生成文法と機能的統語論が何を指し、現在の言語研究に如何なる貢献を為してきたかを、日英語の言語データを通じて実証的に検証し、言語研究の奥深さを学んでいきたい。併せて、国語である日本語の構造と英語の構造を比較し学習することを目指す。また、国語科の学校文法が依拠する橋本文法等の日本語文法理論を再検討することも目的の一つとする。</p>		
到達目標	<p>本講座の到達目標は、受講生が、①日英語の語法・文法・意味についての基礎知識、②生成文法の基礎知識、③英語と日本語を比較・対照した実証的研究、等を通じて、言語研究の基礎的方法論を身につけることである。</p>		
学修方法	<p>まず、第一にテキストを精読し、その内容を十分に吟味し、理解した事柄を、自らの言葉で表現できることが大切である。また、その際、単なる内容のまとめではなく、その理解を深めるために、言語事実をよく検証し、テキスト外の言語現象にも目を配り、理解した内容を応用できる力をつけてもらいたい。</p>		
スケジュール	<p>各テキストの内容に従って、勉強を進め、レポート課題に済み次第、速やかに提出し、添削指導を受けることとする。なお、各レポート課題の最終提出前に、2回以上の指導を受ける必要がある。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	60%	最終提出レポートの評価
	平常評価	40%	事前提出レポートに関する評価
履修者への要望	<p>できるだけ早めにレポートの草稿を提出できるように心掛けて下さい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 岸本秀樹 教材名： 『ベーシック生成文法』（ひつじ書房，2009年）ISBN:978-4-89-476426-2 1,600円+税
	「人間は生まれた時から言語を獲得するシステムを内在している」という仮説が20世紀半ばに提唱されて以来，言語の研究は本格的な科学へと発展してきた。本教材では，日英語において日常的に観察される言語データを用いて，生成文法がどのような見方で言語をとらえるかが詳しく解説されており，本教材を通して，ことばを科学的に分析する方法について学んで頂きたい。
参考図書	町田健『生成文法がわかる本』（研究社出版，2000年）ISBN:978-4-32-737680-2 1,900円+税 中村捷・金子義明・菊池朗『生成文法の新展開』（研究社，2001年）ISBN:978-4-32-742155-7 3,000円+税 福井直樹『自然科学としての言語学－生成文法とは何か』（大修館書店，2001年） ISBN:978-4-46-921265-5 2,300円+税 今井邦彦『チョムスキー小事典』（大修館書店，1986年）ISBN:978-4-46-904244-3 2,600円+税 中島平三・池内正幸『明日に架ける生成文法』（開拓社，2005年） ISBN:978-4-75-891809-1 3,000円+税
履修上のポイント	前期の目標は，現代言語学の中核理論である生成文法の基本を学び，以下の点を中心に，英語と日本語の統語構造について考察する。 ①文の構造 ②言語獲得 ③Xバー理論 ④意味役割 ⑤主語
レポート課題 1	1. 第1章から第6章を読み，言語獲得と普遍文法の関係について，説明しなさい。 2. 第1章から第6章を読み，日英語の違いについて，Xバー理論に基づいて説明しなさい。
レポート課題 2	1. 第7章を読み，日英語のYES・NO疑問文を派生する方法について，Xバー理論に基づいて説明しなさい。 2. 第8章・第9章を読み，日英語の受動文を派生する方法について，項構造に配慮して説明しなさい。 3. 第12章。第13章を読み，日英語の主語について，項構造に配慮して説明しなさい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 高見健一 教材名： 『機能的統語論』（くろしお出版，1997年）ISBN:978-4-87-424151-6 2,000円+税
	本教材では，基本教材1で学んだ文の構造に焦点を当てて分析する形式主義的なアプローチと比較しながら，文の意味や機能に焦点を当てて分析する機能主義的なアプローチを学んでいく。具体的には，英語と日本語を比較対照しながら，それぞれの言語の構文や現象が適格となったり，不適格となったりする背後にある機能上の制約や原則の働きを考察し，その理由を探る。
参考図書	久野すすむ『談話の文法』（大修館書店，1978年）ISBN:978-4-46-922021-6 2,500円+税 高見健一『機能的構文論による日英語比較』（くろしお出版，1995年）ISBN:978-4-87-424107-3 4,200円+税 高見健一『日英語の機能的構文分析』（鳳書房，2001年）ISBN:978-4-90-030481-9 4,800円+税 中右実ほか『談話と情報構造』（研究社出版，1998年）ISBN:978-4-32-726002-6 2,400円+税 福地肇『談話の構造』（大修館書店，1985年）ISBN:978-4-469-14220-4 2,300円+税 西光義弘『日英語対照による英語学概論（増補版）』（くろしお出版，1999年） ISBN:978-4-87-424169-1 2,500円+税
履修上のポイント	後期の目標は，文の意味や機能に焦点を当てた機能文法の基本を学び，以下の点を中心に，英語と日本語の構文や現象の背後にある適格性について考察する。 ①後置文 ②省略 ③結果構文 ④受身文 ⑤Tough構文 ⑥中間態と可能態 ⑦視点 ⑧再帰代名詞 ⑨数量詞の作用域
レポート課題 1	基本教材2（『機能的統括論』）の第1章から第4章まで，各章ごとに内容をまとめ，練習問題を解答すること。
レポート課題 2	基本教材2（『機能的統括論』）の第5章から第9章まで，各章ごとに内容をまとめ，練習問題を解答すること。